

# 青梅市文化財ニュース

第419号

令和4年9月15日

発行 青梅市文化財保護指導員連絡協議会

青梅市郷土博物館(青梅市駒木町 1-684 Tel0428-23-6859)

## ジョウビタキの繁殖

ジョウビタキはスズメ目ヒタキ科体長約14cmの冬鳥です。中国、サハリンなどで繁殖し、市内には10月20日前後にやってきて「ヒッヒッヒッヒッ…」という声で鳴いてなわばりを宣言します。冬鳥の一番手として冬の訪れを感じさせてくれる野鳥です。庭先にやってきてカキ、ヤブラン、ムラサキシキブなどの実を好んで食べます。落葉を掻くとミミズを狙って人の近くにやってきては「ヒッヒッ…カッカッカッ…」と我先にととなわばり宣言をします。あまり人を恐れないので「団子しよい」「紋付鳥」「バカッチョ」など愛称が多いことでも知られています。



オス



メス

冬期雌雄は別々に暮らし、なわばりに入ってくる同種を追い払い1羽で生活します。市街地から低山、植栽の多い公園、農耕地、河川敷、草地など明るい所を好みます。よく響く声と目立つ所によく止まり、目にすることが多い野鳥です。

主な繁殖地はバイカル湖からアムール流域、モンゴル、満州、ウスリー地方、中国北部朝鮮などで、日本国内での繁殖例はごく少なく、昭和58(1983)年に北海道上士幌町糠平で、平成22(2010)年6月に長野県富士見町富士見高原の山林で繁殖が確認されています。当初は偶発的なものとされていましたが、八ヶ岳周辺で平成22(2010)年～平成25(2013)年の4年間調査を実施したところ、ジョウビタキが定着して繁殖していることが判明しました。

日本野鳥の会奥多摩支部では5月～7月頃に遠出探鳥会として群馬県、長野県など訪れてジョウビタキは必ず観察できる鳥として定着してきました。令和4(2022)年には北八ヶ岳ロープウェイ乗り場、八島ヶ原湿原ビジターセンター付近、丸沼高原ロープウェイ山頂駅、北杜市道の駅「南きよさと」、横谷溪谷などで観察できました。

令和4年7月24日横谷温泉旅館に宿泊しところ、玄関先にジョウビタキが営巣しているのを発見しました。玄関先の車寄せに立てかけてある丸太飾りの上部と天井の隙間に巣がありました。巣材は外側が堅い草本類、細い枝でできています。産座である内側は細い根、苔類、細い草本類などでできていました。



エサを持ち帰ったジョウビタキのメス



飾り丸太上部に巣がある

人の出入りが多い玄関先であっても10分に1回、程度メスが巣に戻りエサを運びます。ヒナは3羽ほど見え、メスは給餌が終ると素早くエサを探しにいきます。丁度出てこられた支配人に巣のことを告げると、知らなかったと驚かれていました。ラジオ体操を始めた高校生たちがいてもエサを持って戻ってきました。

本来のジョウビタキの巣は樹洞などを多く利用していたのですが、日本の例を見ると玄関脇の上部の棚、玄関先の桟上部、換気扇フード内、東屋の照明器具の上など人工物を利用することが多いようです。ツバメのように人の出入りが多い場所を利用しています。

周辺的环境は乙女滝、霧降の滝などがある全長6kmの横谷溪谷（渋川）で、ヒナに持ってくるエサは水生昆虫が多く毎回頭が濡れていました。横谷温泉旅館周辺には少なくとも6羽のジョウビタキがいて確認できたのはメス4羽とオスが2羽でした。エサやりは雌雄共同で行うことになっていますが、観察している1時間にオスは戻ってきませんでした。

#### 引用文献

林 正敏、山路公紀（2014）「八ヶ岳周辺におけるジョウビタキの繁殖と定着化」

（文責 荒井悦子）